令和４年度　横浜市精神保健福祉審議会
第２回　依存症対策検討部会

日　　時　：令和５年２月 27 日(月)
　　午後５時 30 分～午後７時 00 分（予定）
会　　場　：横浜市こころの健康相談センター　会議室
　　集合形式・Ｗｅｂ会議形式併用による開催

≪次　第≫

１　開会

２　報告

(1)　令和４年度の依存症対策事業実施状況について

(2)　令和４年度の横浜市依存症関連機関連携会議及び支援者向けガイドラインについて

(3)　減酒外来の取組について

(4)　令和５年度の依存症対策事業の事業計画について

３　その他

【配付資料】
資料１　令和４年度の依存症対策事業実施状況について
資料２　令和４年度の横浜市依存症関連機関連携会議及び支援者向けガイドラインについて

資料１

こころの健康相談センター等における
令和４年度の依存症対策事業実施状況について

＜こころの健康相談センター及び精神保健福祉課が実施する取組＞

実施月	事業・取組 【新規／継続】	取組詳細	対応する 重点施策
５月	ギャンブル等依存症家族向けセミナー【継】	５月 31 日　横浜市社会福祉センター 参加者：41 名（ご家族、支援者） 講師：松﨑尊信医師（久里浜医療センター精神科医長）	３、４、５
５月～	ギャンブル等依存症相談窓口紹介カードの配布【継】	依存症の簡易チェックリスト、相談窓口などを掲載したカードを配布し、配架を依頼。 配付先：各福祉保健センター、自助Ｇ、回復施設等	３
５月	公共交通における動画広告【継】	ギャンブル依存症に関する相談を勧奨する動画を作成し、公共交通機関で放映 車内広告：横浜市営地下鉄、JR 横浜線、相鉄線、市営バス、神奈中バス ホームドアビジョン：みなとみらい線（馬車道駅、元町・中華街駅） 掲示期間：令和４年５月２日～５月 29 日（ホームドアビジョンのみ５月 31 日まで）	１、２、３
５月	・広報よこはま【継】 ・横浜市 Twitter からの発信【継】	・広報よこはま５月号ので、ギャンブル等依存症啓発週間に合わせたセミナーや相談先について案内。 ・横浜市 Twitter からのギャンブル等依存症啓発週間についての発信	１、２、３
５月～３月	インターネットリスティング広告【継】	Yahoo！及び Google の検索エンジンでの依存症に関連する単語で検索された際に、こころの健康相談センターを案内するインターネット広告の表示 セルフチェックの実施件数：7,635 件（１月末時点）	３
６月～３月	インターネットを活用した相談支援事業【新】	インターネットの検索連動広告を活用した、背景に依存症の問題を抱えるハイリスク者を対象としたメール相談を実施 メール相談件数：91 件（１月末時点）	３
６月～	民間支援団体の活動紹介【新】	こころの健康相談センターを民間支援団体の活動を紹介する場として活用 開催数：4団体（延べ6回） 参加者：延べ 31 名	５

<table>
<tr><th>実施月</th><th>事業・取組
【新規／継続】</th><th>取組詳細</th><th>対応する
重点施策</th></tr>
<tr><td>７ ～ 10
月</td><td>スキルアップ研修
【新】</td><td>R３年度まで実施していた基礎・実践研修から依存症に関する相談支援のスキルアップを目指す支援者向け研修として開催（オンライン開催）（７・８月：基礎編、９・10 月実践編を各月１回）
<table><tr><td>実績</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10 月</td><td>合計</td></tr><tr><td>延べ参加</td><td>81 名</td><td>77 名</td><td>74 名</td><td>74 名</td><td>306 名</td></tr></table></td><td>４、５、６</td></tr>
<tr><td>８月</td><td>ゲーム障害家族向けセミナー【継】</td><td>８月 18 日　横浜市社会福祉センター
参加者：108 名（本人、ご家族、支援者）
講師：藤田純一医師（横浜市大附属病院児童精神科外来医長）</td><td>３、４、５</td></tr>
<tr><td>９ ～ 10
月</td><td>公共交通における動画広告【継】【再掲】</td><td>５～６月と同様、啓発動画を公共交通機関で放映。依存症全般に関する基礎知識と相談勧奨の動画。
掲示期間：令和３年９月～10 月のうち４週間
（交通機関により実施時期が異なる）</td><td>１、２、３</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>支援者向けガイドラインの完成【新】</td><td>身近な支援者等が支援に迷った時などに活用できる手引きである支援者向けガイドラインの完成</td><td>４</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>・広報よこはま【継】
・横浜市 Twitter からの発信【継】</td><td>・広報よこはま 11 月号で、アルコール関連問題啓発週間に合わせたセミナーや相談先について案内。
・横浜市 Twitter からのアルコール関連問題啓発週間についての発信
・神奈川新聞での記事掲載
・よこはま企業健康マガジンでの記事の配信</td><td>１、２、３</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>リカバリースタッフ向け研修【継】</td><td>11 月 16 日　オンライン開催
参加：19 名
講師：水澤寧子 PSW（Recovering Minds 理事長）</td><td>５</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>アルコール依存症家族向けセミナー【継】</td><td>11 月 25 日　横浜市技能文化会館
参加：37 名（ご家族、支援者）
講師：早間文穂 PSW（誠心会神奈川病院）</td><td>３、４、５</td></tr>
<tr><td>11 ～ １
月</td><td>公共交通等における動画広告【継】【再掲】</td><td>・５～６月、９～10 月と同様、公共交通機関で放映。アルコール依存症に関する相談勧奨の動画。
掲示期間：11 月 10 日～16 日を含む4週間
・ワクチン接種会場（横浜駅西口会場ほか２会場）の経過観察ブースで相談勧奨の動画を放映。
掲示期間：11 月9日～
・新横浜駅のプロジェクターサイネージで相談勧奨の動画を放映。
掲示期間：12 月1日～1月 15 日</td><td>１、２、３</td></tr>
</table>

実施月	事業・取組 【新規／継続】	取組詳細	対応する 重点施策
12 月	ゲームに関する啓発ちらしの作成・小中学校での配布（教育委員会と共同実施）【継】	家庭でのゲームとのつきあい方を子どもと話し合い、ルール作りをするきっかけとなること、また、ゲームによる問題がすでに起きている場合に相談につながることを目的とした、保護者向けのちらしを作成し、市立の小中学校で配布。 配布対象：小学４年生から中学３年生	１、３
３月	家族支援に関するリーフレットの改訂【新】	家族支援に関するリーフレットをリニューアルし、配布。	１、２、３
３月	依存症関連啓発資材の関係機関・団体への発送【継】	主に横浜市内の関係団体・機関・関連部署等へ、こころの健康相談センターで作成している広報物を発送し、実情に応じて配架・配布を依頼。	１、２、３、４、６
３月	若年層向け普及啓発動画及び家族等向け支援紹介動画の制作・公開【新】	SNS 等を活用した主に若年層向けの依存症の正しい理解を促進する普及啓発動画及び依存症の家族等向けに依存症の回復過程を理解する紹介動画を制作し、公開	１、２、３
通年	依存症セルフチェックウェブページの公開、周知広報物の作成・配布【継】	Web 上で依存症の簡易スクリーニングテストができるページを公開。また、ウェブページを周知する広報物を作成し、配布（２月）。 依存対象：アルコール（AUDIT）、薬物（DAST-20）、ギャンブル等（SOGS）、インターネット（IAT）	３
通年	減酒外来におけるアルコール依存症の早期発見・早期継続支援及び普及啓発事業【継】	横浜市立大学への委託事業で、市民総合医療センター内の減酒外来において、以下の取組を実施。 (1) 専門職員を配置し、通院患者・入院患者のアセスメント、依存症治療・支援へのつなぎ (2) 民間団体との連携及び支援情報の収集と整理 (3) 地域の医療機関の医療従事者向けに専門的な医療の知見を活かした研修、一般市民及び依存症者の家族等向けの普及啓発	１、２、３、４、５
通年	家族教室【継】	月１回実施（５月、８月、11 月は公開セミナーを実施【再掲】） 延べ参加者：275 名（１月末時点）（R3 計：200 名） 医療機関、民間支援団体等からの講師による講義・体験談、職員によるクラフト（年４回）	５

<table>
<tr><th>実施月</th><th>事業・取組
【新規／継続】</th><th>取組詳細</th><th>対応する
重点施策</th></tr>
<tr><td>通年</td><td>回復プログラム
【継】</td><td>全８回×２クール（２週に１回×８回）
実参加者：19 名（１月末時点）（R3 計：15 名）
回復施設等のスタッフもアドバイザーとして毎回参加。</td><td>５</td></tr>
<tr><td>通年</td><td>相談件数【継】</td><td>専門相談員による電話・面接での相談件数
（４～１月分（速報値））
<table>
<tr><th>主たる依存対象</th><th>延べ件数</th><th>(参考)R3 計</th></tr>
<tr><td>アルコール</td><td>431</td><td>357</td></tr>
<tr><td>薬物</td><td>145</td><td>205</td></tr>
<tr><td>ギャンブル等</td><td>205</td><td>180</td></tr>
<tr><td>ゲーム</td><td>52</td><td>83</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>196</td><td>222</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>1029</td><td>1047</td></tr>
</table></td><td>５</td></tr>
<tr><td>随時</td><td>連携会議【継】</td><td>令和４年度は４回開催。
・第１、２回はテーマ別の会議を開催。
第１回：７月 12 日@こころの健康相談センター＋Web
テーマ「物質依存を抱えている人への支援を考える」
第２回：７月 15 日@こころの健康相談センター＋Web
テーマ「行動依存を抱えている人への支援を考える」

・第３回は全体会を開催し、支援者向けガイドラインの完成を報告。
第３回：10 月 25 日@横浜ビジネスセンター＋Web
講演：菱本医師（横浜市立大学医学部教授）
テーマ：依存症支援に必要なネットワークや支援者向けガイドラインの活用について

・第４回はテーマ別の会議の開催。
第４回：12 月 15 日@Web
テーマ：依存症専門医療機関等におけるアルコール依存症患者への支援等について</td><td>４、５、６</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>民間支援団体補助金【継】</td><td>民間支援団体の活動を支援するため、団体が実施するミーティングや普及啓発、相談活動等の事業への補助金を交付
交付決定数：６団体 11 事業（R3：16 事業）</td><td>５</td></tr>
</table>

資　料　2
令和５年２月２７日
検討部会説明資料
こころの健康相談センター

令和４年度 横浜市依存症関連機関連携会議及び依存症支援者向けガイドラインについて（報告）

１　横浜市依存症関連機関連携会議について

令和２年３月から、こころの健康相談センターを依存症相談拠点に位置づけ、包括的な支援を実施しています。令和２年度より、依存症対策事業の連携強化への取組の一つとして依存症関連機関連携会議（以下、「連携会議」という）を開催しており、全体会、依存対象別、テーマ別、事例検討会など、テーマに合わせて開催形態を工夫しながら定期的に開催しています。

今年度の連携会議は、全体会１回、テーマ別３回の合計４回開催しました。全体会では、「依存症支援者向けガイドライン」の完成を報告し、テーマ別では依存対象別（物質依存・行動依存）のほか、医療機関の皆様とアルコール依存症に関連する取組状況などについて意見交換しました。

２　令和４年度 第１回・第２回連携会議（テーマ別）の実施報告について

（1）日程･開催形式

■第１回：令和４年７月 12 日（火）午後３時 30 分から午後５時まで 集合及び WEB 併用
■第２回：令和４年７月 15 日（金）午後３時 30 分から午後５時まで 集合及び WEB 併用

（2）議題

■第１回：「物質依存を抱えている人への支援を考える」
（有識者）神奈川県立精神医療センター　小林桜児　先生
■第２回：「行動依存を抱えている人への支援を考える」
（有識者）久里浜医療センター　松﨑尊信　先生

（3）主な意見等

各機関の取組状況や最近の相談の特徴などについて意見交換

【第1回】
・成果を見える化し共有することが本人のモチベーションにもつながる。
・一緒に考えるという姿勢が本人に伝われば、関係が構築されつながりやすくなる。
・飲んでもやり直せるよう、関係機関とも連携を取り役割分担して関わることが大切。
・依存症に関する知識が不足している業界や職種を把握して情報提供し、早期発見・早期支援につなげてもらうことが大切。
・併存疾患や生活課題の有無等によって、動機づけのレベルや関わり方は千差万別。社会資源ごとに特徴を分けて、能力や希望等に応じて利用先を選択できるとよい。

減酒外来の取組状況についての話題提供があり、意見交換を行う中で、回復施設等を利用している層と減酒外来に通院している層とでは重症度などが異なるということを参加機関と共有。第４回連携会議（テーマ別：医療機関）の開催につながった。

【第2回】
・依存症を切り口にすると、依存症に目を奪われてそこに終始してしまいがちになる。別の物差しで見ると、背景に他の課題があったり社会的に孤立している人も多い。
・親族等との死別が孤立につながることは多く、病状悪化等のきっかけにもなる。
・孤立・孤独感を感じやすい人が増えており、依存症も低年齢化している。
・生活課題は誰にでもある。失敗等も含めて気軽に話せるような、相談の敷居を下げる啓発や取組ができるとよい。
・連携するためには、施設等ごとの特色や考え方を支援者間で共有することが大切。

孤立・孤独についての話題提供があり、その部分を含めて解決しなければギャンブル等の行動依存や様々な背景課題は解決しないということを共有し、「表面の課題だけでなく、その背景、成育歴等も含めて聞くことが大切」ということを確認。
また、「各機関の特色を活かし互いに連携できれば幅を持った支援ができ、追い詰められることなく、社会全体でサポートしていくことができるのでは」ということを共有した。

3　令和４年度 第３回連携会議（全体会）の実施報告について

（1）日程・開催形式

令和４年 10 月 25 日（火）午後３時 30 分から午後５時まで 集合及び WEB 併用

（2）議題

依存症支援のネットワーク構築に向けた連携会議の持ち方や開催内容について

（3）主な意見等

【ガイドライン】
・つながらないのは、本人の動機づけや病状だけでなく、支援者側が的確なアセスメント（現状の動機づけレベルと病状の評価等）をできていないことも要因。
・アセスメントやつなぎ先、基本姿勢、チェックポイントなどが盛り込まれており、最初の第一歩としてのベースができたのではないか。
・「依存症で亡くなることもある」という緊急性にも触れられているのはよい。
・資料編の関係機関一覧を見るだけでも、横浜市は関係機関が充実しているとわかる。
・ガイドラインがあることで、依存症支援のイメージがもっと広がるとよい。
・複数の機関が関わると、本人や各機関の考え、課題等の共通認識を持つことも大変。ガイドラインが、共通で活用できる一つのツールとなるとよい。
・ガイドラインを使ってみての感想を聞き、アップデートしていかれるとよい。

【依存症支援のネットワーク構築に向けた意見交換】
・精神障害の支援者でも依存症の知識に乏しく、福祉サービスにつながっていっても背景にある発達障害や依存症等の様々な課題を見逃していると感じることがある。
・本人の否認について「これは依存症の症状」と伝えると、驚く福祉系支援者もいる。
・連携会議の参加機関だけでなく、各機関の支援者が気軽に参加できるようなネットワークを作っていく取組が必要。

ガイドラインはあくまでも手段。活用することで依存症支援の裾野を広げて、困っている方々に適切な医療や支援を届けることが最終目標であることを確認。例えば、資料編「関係機関一覧」を地方版に差し替えて全国で使えるようにすることで、横浜市の取組が全国に広がり、依存症でお悩みの方々が必要な支援につながれるようになるとよい。

また、ガイドラインを周知する際には他の依存症啓発リーフレット等を一緒に案内することで活用の幅が広がるのではとの意見をいただき、毎年度当初に発送している当センター作成のリーフレット等にガイドラインの案内も同封して発送する予定。

その他、依存症支援のネットワーク構築に向けて、支援者間でのズレをどうように埋めていくのかが今後の課題であること等を共有した。

４　令和４年度 第４回連携会議（テーマ別）の実施報告について

（1）日程・開催形式

令和４年 12 月 15 日（火）午後５時 00 分から午後６時 45 分まで　WEB 形式

（2）議題

■身体科等からの紹介及び専門医療機関等で減酒を希望する人への治療等について

■依存ステージごとの減酒外来終了後の重症化予防策等について

（3）主な意見等

【減酒外来の取組】

減酒外来を設置している２つの医療機関（横浜市立大学附属市民総合医療センター及び横浜市立市民病院）の取組報告。

【専門医療機関での取組】

・専門医療機関でも、患者の希望とアセスメントを合わせて対応（節酒または断酒）。

・仕事や家庭を持っている人が休んで治療やプログラム等に来るのはハードルが高い。

【早期発見・早期支援】

・早期発見の視点からは、本人の周囲にいる人たちへの啓発・働きかけが大切。

・最初につながる可能性のある機関の方々に対する啓蒙や情報提供が大切。

・医療機関では、紹介してくれた機関にパンフレットを送ったり、医師会で取組状況を紹介したりして医療機関の情報提供している。

・今ある可能な資源で、コツコツ周知等を続けていくことが重要。

【減酒・断酒の継続と社会資源】

・自助グループが必要なのは、心理的に孤立していたり、人とのコミュニケーションに苦労していたり、そこしか居場所がない層の人たち。

・節酒レベルの人に自助グループ等を勧めても難しい。節酒・減酒を目指している層の長期的にみた居場所や相談先は、不足している。

・仕事ができている層は、節酒・断酒するだけで自然と体調がよくなる。それだけでも、動機づけになる。

・本人が好きなこと、自分に合った居場所を見つけていくこと、お酒等の依存対象に頼らない生き方を見つけていくことができるような関わりができるとよい。

【依存症治療等の課題】

・集団に適応できず、個別対応が必要となるケースが増えている。
・依存症と他の精神疾患・知的障害等を併存していると、どちらの施設等からも断られる。
・本人や家族が高齢、理解力が乏しい等、自分たちでアクションを起こすことが難しい層へ支援者側が入っていくような仕組みがあってもよいのではないか。
・浅いレベルであれば、減酒外来３回でもできることはあるが、深いレベルで人生や考え方を変えるところまでは３回では困難。

減酒外来の取組は、早期にやめていく気持ちのある人をきちんと拾うという面で、非常に意味のある取組であり、市内の総合病院に広がっていくとよいということを共有。
また、様々な知恵を出し合うためにも、まずは院内の多職種（医師、コメディカルスタッフ）で意見交換する機会を定期的に持てるとよいということ等を共有した。

５　次年度の連携会議について

・今年度の第４回は初の試みとして、参加機関を医療機関に絞って開催し、テーマに沿った濃密な意見交換がなされました。
・令和５年度も継続して連携会議を開催します。引き続き現場の意見を丁寧に伺いながら、参加機関・団体とのネットワークの構築を図っていきます。
・開催にあたっては、内容に応じて形態を工夫しながら開催していきます。

６　「入門・イチから学ぶ依存症支援～横浜市内で依存症及び関連課題に携わる支援者向けガイドライン～」の策定について（別紙、記者発表資料　参照）

（1）策定の目的等

・「横浜市依存症対策地域支援計画」の重点施策４「身近な支援者等から依存症支援につなげるための取組」として、令和４年 11 月に支援者向けガイドラインを策定しました。
・ガイドライン作成に向けた身近な支援者等へのアンケート・ヒアリング調査では、８割近くの支援者が「他の相談支援と比較して大変」等と感じており、依存症支援に苦手意識を持っていることが伺える結果でした。
・横浜市立大学大学院医学研究科 菱本明豊先生に監修していただき作成しました。

（2）ガイドラインのおすすめポイント

■依存症対象別チェックリスト

アルコール、薬物、ギャンブル等の家族会の皆様からご意見をいただき、ステージごとに本人・家族の状況等をまとめました。現状どのステージにいるかをチェックできるほか、おすすめの対処法も紹介しています。

■緊急度のリスク評価チェックリスト

依存症関連機関連携会議での意見交換や事例検討などを通して、本人・家族・生活の状況のほか、身体状況も含めて緊急度のリスク評価ができるようまとめました。

■他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと

依存症関連機関連携会議での意見交換を通して「他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと」を３つの項目にまとめました。

(3)ガイドラインの活用について

令和５年度も継続して、身近な支援者等にガイドラインを活用していただけるよう周知・啓発等していきます。また、実際に使ってみての感想やご意見を丁寧に伺いながら、アップデート等していきます。

7　令和４年度　横浜市依存症関連機関連携会議　参加機関・団体一覧

		団体名等
1	有識者	横浜市立大学大学院医学研究科
2	有識者	地方独立行政法人神奈川県立病院機構　神奈川県立精神医療センター
3	有識者	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター
4	自助グループ	AA 横浜地区メッセージ委員会
5	自助グループ	横浜断酒新生会
6	家族会	横浜断酒新生会（家族会員）
7	自助グループ	ナルコティクスアノニマス　南関東エリア
8	自助グループ	ナラノン・ファミリー・グループ　ジャパンＮＳＯ
9	家族会	NPO 法人横浜ひまわり家族会
10	自助グループ	ＧＡ（日本インフォメーション）
11	自助グループ	ギャマノン
12	家族会	全国ギャンブル依存症家族の会　神奈川
13	自助グループ	あざみ野ファミリー12 ステップ
14	専門医療機関	地方独立行政法人神奈川県立病院機構　神奈川県立精神医療センター
15	専門医療機関	医療法人誠心会神奈川病院
16	専門医療機関	医療法人社団祐和会　大石クリニック
17	医療機関	公立大学法人横浜市立大学附属　市民総合医療センター
18	医療機関	横浜市立市民病院　神経精神科
19	回復支援施設	NPO 法人 RDP　RDP 横浜
20	回復支援施設	NPO 法人あんだんて　女性サポートセンターIndah(インダー)
21	回復支援施設	NPO 法人ギャンブル依存ファミリーセンターホープヒル
22	回復支援施設	NPO 法人市民の会　寿アルク
23	回復支援施設	NPO 法人ステラポラリス
24	回復支援施設	ダルク　ウィリングハウス
25	回復支援施設	日本ダルク神奈川
26	回復支援施設	NPO 法人ヌジュミ　デイケアセンターぬじゅみ

27	回復支援施設	NPO 法人 BB　横浜市地域活動支援センターBB
28	回復支援施設	一般社団法人ブルースター横浜
29	回復支援施設	一般社団法人 HOPE
30	回復支援施設	NPO 法人横浜依存症回復擁護ネットワーク　横浜リカバリーコミュニティー
31	回復支援施設	NPO 法人横浜ダルク・ケア・センター
32	回復支援施設	NPO 法人横浜マック　横浜マックデイケアセンター
33	回復支援施設	株式会社わくわくワーク大石
34	回復支援施設	認定 NPO 法人ワンデーポート
35	関連機関	NPO 法人のびの会
36	支援機関	社会福祉法人同愛会地域活動ホームくさぶえ 都筑区基幹相談支援センター
37	支援機関	社会福祉法人神奈川県匡済会　横浜市踊場地域ケアプラザ
38	支援機関	公益社団法人総合保健医療財団 横浜市港北区生活支援センター
39	支援機関	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市高次脳機能障害支援センター
40	支援機関	社会福祉法人横浜やまびこの里　横浜市発達障害者支援センター
41	行政機関	法務省　横浜保護観察所
42	行政機関	青葉区福祉保健センター高齢・障害支援課　高齢者支援担当
43	行政機関	泉区福祉保健センターこども家庭支援課
44	行政機関	南区福祉保健センターこども家庭支援課
45	行政機関	都筑区福祉保健センター高齢・障害支援課　障害支援担当
46	行政機関	鶴見区福祉保健センター高齢・障害支援課　障害者支援担当
47	行政機関	戸塚区福祉保健センター高齢・障害支援課　障害者支援担当
48	行政機関	横浜市健康福祉局生活支援課
49	行政機関	旭区福祉保健センター生活支援課
50	行政機関	横浜市南部児童相談所

横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令 和 4 年 1 1 月 1 日
健康福祉局こころの健康相談センター

横浜市依存症支援者向けガイドライン

『入門・イチから学ぶ依存症支援

支援の手引き

～横浜市内で依存症及び関連課題に携わる支援者向けガイドライン～』

を**策定**しました！

冊子表紙

依存症関連機関連携会議にて撮影（令和4年10月25日）

1　支援者向けガイドライン策定の目的

■ 横浜市依存症対策地域支援計画

横浜市の総合的な依存症対策の推進に向け、令和３年 10 月に「横浜市依存症対策地域支援計画」を策定しています。このなかの重点施策４として、身近な支援者等から依存症支援につなげるための取組を掲げており、これに基づき支援者向けガイドラインを策定しました。

■ ガイドライン作成に向けた身近な支援者等へのヒアリング調査結果（抜粋）

依存症支援の困難の程度について、８割近くの支援者が「他の相談支援と比較して大変」と感じているとの結果でした。

また、支援に当たっての課題について、６割近くの方が「依存症の知識不足」、５割近くの方が「自機関単独では支援体制を組めない」と感じていると回答しています。

① 依存症の本人や家族と接点を持つ機会のある**身近な支援者等が支援に迷った時などに活用可能な、実践的な手引きとなること**

② **身近な支援者から、依存症の治療・回復支援を専門とする機関や団体に適切につなぐこと**

③ 生活困窮や多重債務、ＤＶなど依存症に関係する様々な**生活上の課題を抱えた人を専門機関等から必要な支援者につなぐときに、大切にしたいこと関係者間で共有すること　など**

①～③を主な目的として、支援者向けガイドラインを作成しました。

2　監修者（横浜市立大学大学院医学研究科 菱本 明豊先生）のコメント

実践場面ですぐに活用してもらえるようなものを作ろうという意気込みで、作ってまいりました。様々な依存症がある中で、それらすべてを網羅することは大変な難しさもありました。今後、皆さんに活用していただき、アップデートすることで、全国でも使ってもらえるようなガイドラインになっていけばいいなと思っております。

3　ガイドラインの“ここに注目！”

■ **依存症支援の困難さ**

本人に自覚がないことが多く周囲を巻き込む、背景に複合的な生活課題が潜んでいる　など

■ **身近な支援者等に求められること**

依存症（疑いを含む）の本人や家族を早期に適切な医療や支援につなぐこと

支援者向けガイドラインには、
依存症の基礎知識、相談対応チャート、本人や家族への相談・支援のノウハウ、緊急介入のポイント、ケーススタディ、連携機関・団体一覧、依存対象別チェックリストなど　を掲載しています。

【ここに注目】

1. 依存症の基礎知識には、具体的な相談場面で活用してもらえるよう、身近な支援者等が疑問に感じていることについて、「支援」の切り口から解説しています。
2. 依存症対象別チェックリストは、アルコール・薬物・ギャンブル等の家族会の皆様からご意見をいただき、**ステージごとに本人・家族の状況等をまとめました。現状どのステージにいるかをチェックできるほか、おすすめの対処法も紹介**しています。
3. 緊急度のリスク評価チェックリストは、依存症関連機関連携会議での意見交換や事例検討などを通して、**本人・家族・生活の状況のほか、身体状況も含めて緊急度のリスク評価ができるようチェック式のリストとしてまとめました。**
4. ガイドラインの活用を通して、市域の身近な支援機関等や依存症専門機関で依存症支援や回復のプロセスを共有できるようにするほか、依存症関連機関連携会議で意見交換を通して**「他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと」を３つの項目にまとめました。**

4　ガイドラインの配布等について

① 市ホームページからＰＤＦファイルがダウンロードできます。

【URL】https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/kokoro/izonsho/izon_renkei.html

② 市内の関係機関・団体へは、横浜市こころの健康相談センターにて各機関・団体１冊まで無料で配布します。

③ ガイドラインの購入を希望される方へは、販売を予定しています（令和４年 12 月以降）。

お問合せ先
健康福祉局こころの健康相談センター担当課長　中村　秀夫　Tel　045-662-3526